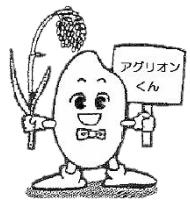


**令和7年度の振り返りを行い、次の作付けの計画を立て始めましょう！**

**1 令和7年度の稻作総括（コシヒカリ）**



**(1) 収量・品質の状況**

- コシヒカリの1等級比率は76.7%（ひすい営農センター管内・11/28現在）と高温の中でも一定の品質を確保しました（参考：R6 85.8%）。
- 主な等級落ちの理由は、①除青未熟、②部分カメ、③青未熟粒でした。
- 作柄は「やや良」。振興局調べではコシヒカリの平均収量は500kg/10aで、目標の480kg/10aを上回りました。

**(2) 等級落ち理由と発生要因～検査結果のハガキやお米の通信簿を見て、管理を見直してみよう～**

理由	米の状態	発生要因	改善の方向
除青未熟	充実不足の米(やせ米や溝が深い米)や白未熟粒が多い等	高温、後期栄養不足、登熟後半の水不足など（複数の要因により発生）	土づくり、出穂25日後までの飽水管理、穗肥増量、適正な粒数の確保（適期中干し）
部分カメ (斑点米)	米粒に斑点米カメムシ類による食害が見られる	カメムシの多発、薬剤防除の不徹底、草刈りの不徹底、本田内イネ科雑草の残草	畦畔・農道の草刈りの徹底、適期防除、本田内雑草の防除の徹底、色彩選別機の利用
青未熟粒	粒表面が緑色をしている米	登熟不足（早刈り、倒伏）、遅れ穂の多発	耕深15cmの確保（根の伸長促進、倒伏防止）、適期収穫（早刈り防止）、茎数過剰の抑制（適期中干し）

※上記以外では、白未熟粒（背白）、肌ずれ、着色粒等が一部で見られました。

**(3) 収量・品質に影響した主な要因**

○今年は高温少雨でしたが、①適期中干しによる過剰生育の抑制と良質茎の確保、②1回目からの適期・適量穗肥の施用及び追加穗肥の実施、③8月第2～3半旬の降雨と気温低下によって、品質と収量が確保できました。

**① 適期中干し、7月の多日照**

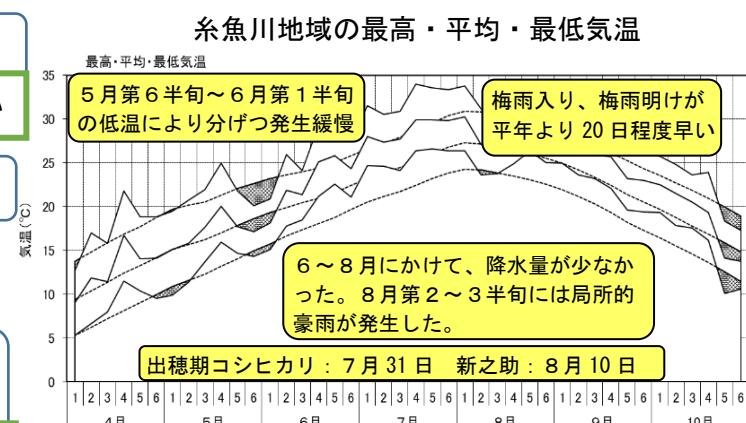
過剰生育抑制、茎質が良好で着粒多い

**② 穗肥施用と適切な水管理**

幼穂形成期頃に落ちた葉色を回復し、後期栄養を維持

**③ 斑点米カメムシ類の多発と防除不徹底及び水田内の残草（ヒエ等）**

部分カメによる落粒



観測地点：糸魚川市東寺町（標高8m）

**(4) 農業者の声～アンケート結果より～**

- 高温に対応した穗肥と水管理の徹底により、収量が確保された。
- 含鉄資材を施用したことにより粒の充実が良かった。
- 適期の中干しと降雨が少なかったことにより、過剰生育が抑えられた。

## 2 令和8年度の稻作に向けて ~収量・品質の安定化を目指しましょう~

目標 コシヒカリ 1等級比率：90%以上、収量：480kg/10a以上

### 重点技術対策

○高温に対応するため、「健苗と中干しによる適正粒数の確保」、「穂肥と水管理による後半まで活力のある稻体づくり」を目指し、「適期収穫」を行いましょう。また、「適切な防除と雑草管理」で斑点米の発生を防ぎましょう。

#### ① コシヒカリの適期移植 ~出穂期が早くならないように~

- ・高温登熟を避けるため、平坦部では出穂期が8月3日頃となるよう5月15日頃に田植えを行いましょう。
- ・老化苗とならないよう、田植え時期を考慮して適期に播種しましょう。
- ・初期生育を良くするため、健苗を移植しましょう。

#### ② 適期中干しによる過剰生育防止 ~小ヒビが入る程度のちょうどよい中干し~

- ・田植え1か月後をめやすに中干しを開始し、過剰な茎数を抑制しましょう。

#### ③ 中干し後の気象に対応した水管理 ~「水稻」と言うだけあって水が肝心!~

- ・米粒に70%程度のデンプンが蓄積される出穂後25日頃まではほ場水分を保ちましょう。なお、用水が確保できるのであれば、可能な限り遅くまでかん水しましょう。
- ・特に高温年は飽水管理による稻体ストレスの軽減が大切です。

#### ④ 後期栄養確保を目的とした穂肥対応 ~近年の高温傾向に対応した穂肥を!~

- ・特に出穂10日前頃の「2回目穂肥」を確実に行いましょう。登熟後半まで粒に栄養を送るためにには充分な量の穂肥が必要です。
- ・葉色を見ながら、必要に応じて3回目穂肥や全量基肥での追加穂肥を実施しましょう。

#### ⑤ 適期収穫・適正調製 ~適期・適正な作業で1等米に仕上げる!~

- ・積算気温で大まかな収穫日のめやすをつけ、ほ場で粒の色（粒黄化率が85~90%くらい）を確認して収穫の判断をしましょう。
- ・早刈りは青未熟粒増加、刈り遅れは胴割粒発生を助長するので注意しましょう。

#### ⑥ 土づくりと根域の確保 ~稻の生育を支える「基礎体力」を向上させる!~

- ・秋すき込みは、春すき込みに比べ田植え後のほ場のワキが抑えられます。わらが分解しやすいよう、地温が高いうち（10月上旬までがめやす）に5~10cmの浅うちでさき込みましょう。
- ・ケイ酸施用は根の吸水力が上がり、高温時の品質低下を防ぎます。また、鉄を含んだ資材はワキの発生を抑え、根を健全に保ちます。
- ・作土深（目標15cm）を確保することで根量が増え、高温に耐えられる稻になります。できるほ場では1年に1cmをめやすに、15cmまで作土を深くしましょう。

### カメムシ類による斑点米の発生防止

- ・畦畔、農道の草刈りを徹底するとともに、中後期除草剤により本田内の残草を減らしましょう。
- ・出穂期頃の薬剤防除を実施し、必要に応じて色彩選別機を活用しましょう。

### 『収量・品質向上！糸魚川産米』

お問い合わせ先

えちご上越農業協同組合（ひすい営農センター）

TEL 0120-640-184

糸魚川NOSA Iセンター

TEL 0120-916-406

糸魚川地域振興局農林振興部（農業普及指導センター）

TEL 553-1906

糸魚川市農林水産業振興協議会（糸魚川市、JAえちご上越、NOSA I 新潟、糸魚川地域振興局農林振興部）